

## ミン・ウォン展 私のなかの私 開催のお知らせ

資生堂ギャラリーでは、2013年7月6日(土)から9月22日(日)まで、ドイツ・ベルリン在住のシンガポール人アーティスト、ミン・ウォンの個展「私のなかの私」(英題: *Me in Me*)を開催します。

1971年、シンガポール生まれのミン・ウォンは、現在、ドイツ・ベルリンを拠点に活動しています。彼は象徴的なワールド・シネマの傑作に、リメイクという手法を通じて自ら入り込み、語り口や脚本、演出技法に新しい解釈を加えることで、オリジナルの映画との差異を際出たせ、人種的・文化的アイデンティティ、ジェンダー、言語、ナショナルリティーといった問題に言及したユニークな映像作品を制作しています。

2009年にヴェネチア・ビエンナーレのシンガポール館で個展を開催し、シンガポール人として最高の審査員特別表彰を受賞。その後、同展は世界各地を巡回しました。以降、ミン・ウォンの活動は国際的な注目を集め、シドニー・ビエンナーレ(2010年)、光州ビエンナーレ(2010年)、シンガポール・ビエンナーレ(2011年)、リバプール・ビエンナーレ(2012年)などの国際展に参加し、シンガポールを代表するアーティストの一人となっています。

1965年、マレーシア連邦から分離独立したシンガポールは、現在、多民族、多言語、多宗教の高度な国際的社會を形成しており、公用語は英語、マレー語、標準中国語、タミル語と多岐にわたります。マレー語は今も国語として定められ国歌斉唱などで使用されるものの儀礼的な言葉となっており、1965年以降のシンガポール政府の二言語主義政策により、英語と標準中国語が広く使用されています。中国系シンガポール人であるミン・ウォンは、幼少期に、1950年代のシンガポールで製作されたマレー映画などの映像文化に親しみ、マレー文化に触れていたことにより、他の地域に住む中国人とは異なるシンガポール人としての認識を強めました。ミン・ウォンはART iTのインタビューで、「私の作品の全てはシンガポール出身で歴史上の特定の時期に住んでいたからこそ作っているものであり、それは今でも私自身を特徴づけるものでもある」と語っていますが、人種的・文化的・国民的アイデンティティ、言語の問題や身体性を内包するハイブリッドな彼の作品は、グローバル化した現代社會のただ中で我々が直面する社會文化的な状況に対し、批評性に優れた洞察となっています。

本展では、日本映画や日本の伝統芸能から着想を得て制作した新作「私のなかの私」を発表します。ミン・ウォンがかねてより望んでいた日本での初の滞在制作による本作品で、彼は日本映画とその歴史を調査・分析し、「時代劇」「現代劇」「アニメ」の3つのジャンルに分類することを試みました。「西洋の映画は写真の延長に存在し、日本の映画は歌舞伎や能といった伝統芸能の延長にある」と指摘する彼は、この3つの映画世界を、それぞれ特有の演技・映画的撮影スタイル・物語設定により、日本映画の典型として表現しています。

「時代劇」では奥行きを感じさせない舞台の上で、平面的かつ舞台と正対する撮影法により、歌舞伎舞踊で女装の敵討ちを演じ、日本映画黄金期の小津・成瀬映画にインスピレーションを得た「現代劇」では、高度經濟成長期を舞台に女性の葛藤、父と娘の複雑な關係性を捉えています。また「アニメ」では、「新世紀エヴァンゲリオン」「メトロポリス」「攻殻機動隊」といった心理学的要素を含む日本アニメをもとに、過去の高校生の頃の記憶を取り戻そうとするアンドロイドが主人公の物語を創造しています。ミン・ウォンは、どのシーンにおいても、日本映画における元型的なキャラクターを創造し、それら全てを彼自身が演じていますが、日本語による台詞の発音、言い回しのぎこちなさ、身体的特徴からは、性差・世代・言語・人種といった個人に備わる要素が否応無しに浮かび上がってきます。

日本映画にインスピレーションを受け、日本国内で初めて制作された新作の映像インスタレーションに、ぜひご期待ください。なお、本作品は本年秋に開催されるリヨン・ビエンナーレへの出品も決定しています。

\* 『ART iT』アンドリュー・マークル氏によるインタビュー [http://www.art-it.asia/u/admin\\_ed\\_feature/1nftkXwrCicLYNPRVq6A/](http://www.art-it.asia/u/admin_ed_feature/1nftkXwrCicLYNPRVq6A/)

## ミン・ウォン 略歴

- 1971 シンガポール生まれ ドイツ・ベルリン在住  
1995 シンガポール・ナンヤン美術アカデミー卒業(中国美術)  
2007 ロンドン大学スレード校美術学部修了(美術・メディア)

## 主な個展

- 2012 *Ming Wong: Making Chinatown*, REDCAT, Los Angeles, US  
*I Should Be Like You*, Galerie carlier | gebauer, Berlin, Germany
- 2011 *Persona Performa*, Performa 11 at the Museum of the Moving Image, New York, US  
*Life of Imitation*, Hara Museum of Contemporary Art, Tokyo, Japan  
*Devo partire. Domani / I must go. Tomorrow*, Villa Romana, Florence, Italy  
*Ming Wong's CYCLORAMA*, Vitamin Creative Space, Guangzhou, China  
*Life of Imitation*, Frye Art Museum, Seattle, Washington D.C., US
- 2010 *Gruppenbild*, Neuer Berliner Kunstverein, Berlin, Germany  
*Devo partire. Domani / I must go. Tomorrow*, Napoli Teatro Festival, PAN, Naples, Italy  
*Life of Imitation*, Singapore Art Museum, Singapore  
*Life & Death in Venice*, Invaliden1 Galerie, Berlin, Germany & Hermès Gallery, Singapore
- 2009 *Life of Imitation*, Singapore Pavilion, 53rd Venice Biennale, Italy  
*Vain Efforts*, 4A Centre for Contemporary Asian Art, Sydney, Australia
- 2008 *Angst Essen – Eat Fear*, Künstlerhaus Bethanien, Berlin, Germany

## 主なグループ展／スクリーニング

- 2012 *Liverpool Biennial*, Liverpool, UK  
*Encounter, Experience and Environment*, Gillman Barracks, Singapore  
*Ming Wong: Making Chinatown*, Toronto International Film Festival, Toronto, Canada  
*A trip to the Moon. Before and after Cinema*, Bonnierskonsthall, Stockholm, Sweden
- 2011 *Berlin 2000–2011: Playing among the ruins*, Museum of Contemporary Art Tokyo, Japan  
*Rollenbilder–Rollenspiele*, Museum der Moderne Salzburg, Austria  
*Invisibleness is Visibleness*, MOCA Taipei, Taiwan  
*Knotting: Swarm in the Era of Digital Media*, National Taiwan Museum of Fine Arts, Taichung, Taiwan  
*Biji Diva!*, In Transit 2011, House of World Cultures, Berlin, Germany  
*Based in Berlin*, Atelierhaus Monbijoupark, Berlin, Germany  
Singapore Biennale, Singapore
- 2010 *Unspooling–Artists & Cinema*, Cornerhouse, Manchester, UK  
*Essential Cinema*, Toronto International Film Festival, Canada  
Gwangju Biennale, Gwangju, Korea  
Sydney Biennale, Cockatoo Island, Sydney, Australia  
*The Fate of Irony*, KAI10, Düsseldorf, Germany  
*Searching Songs*, Yebisu International Festival for Arts & Alternative Visions, Tokyo Metropolitan Museum of Photography, Japan
- 2009 *Playing Homage*, Vancouver Contemporary Art Gallery, Canada  
Jakarta Biennale, Indonesian National Gallery, Indonesia
- 2008 *Das Piraterieproblem*, Brandenburgischer Kunstverein Potsdam, Germany  
*Vertraut oder Verdaut*, ZKM Center for Art & Media, Karlsruhe, Germany

## 受賞／レジデンス

- 2009 Special Mention (Expanding Worlds), 53rd Venice Biennale
- 2007–08 Künstlerhaus Bethanien International Studio Program, Berlin, Germany
- 2003–05 Pearson Creative Research Fellowship, at the British Library, UK

---

■ ミン・ウォンと本展共同キュレーターのタン・フークエンによるギャラリートーク

日時:2013年7月6日(土)14:00-16:00

場所:ワード資生堂 (東京銀座資生堂ビル9階)

お問い合わせ:資生堂ギャラリー tel:03-3572-3901 fax:03-3572-3951

---

■「ミン・ウォン展 私のなかの私」開催要項

主催:株式会社 資生堂

後援:駐日シンガポール共和国大使館

助成:National Arts Council, Singapore

Singapore International Foundation

協力:東京藝術大学大学院映像研究科

BankART 1929

NPO法人 黄金町エリアマネジメントセンター

公益財団法人 神奈川芸術文化財団

株式会社 トリクスタ

会期:2013年7月6日(土)-9月22日(日)

平日 11:00-19:00 日・祝 11:00-18:00 毎週月曜休

[8月12日(月)-16日(金)は夏期休業。8月17日(土)、18日(日)は開館、19日(月)は休館]

会場:資生堂ギャラリー

〒104-0061 東京都中央区銀座8-8-3 東京銀座資生堂ビル地下1階

tel:03-3572-3901 fax:03-3572-3951

URL:<http://group.shiseido.co.jp/gallery> (資生堂ギャラリー)

入場無料

---

■ 展示予定作品 参考イメージ(都合により変更の可能性があります)



Ming Wong  
*Me in Me* 2013  
Multi-Channel Video Installation  
Courtesy of the artist

---

■ 写真資料請求は下記までお願いします。  
資生堂ギャラリー 担当:永田・大橋  
tel:03-3572-3901 fax:03-3572-3951  
(11:00-18:00 月曜休)  
e-mail:[galler@to.shiseido.co.jp](mailto:galler@to.shiseido.co.jp)

■ 本展に関するお問い合わせは下記までお願いします。  
105-8310 東京都港区東新橋 1-6-2  
株式会社 資生堂 企業文化部 担当:井関  
tel:03-6218-5983 fax:03-6218-6150  
(10:00-17:00 土日祝休)  
e-mail:[galler@to.shiseido.co.jp](mailto:galler@to.shiseido.co.jp)